

松本国際中学校 学校通信

6号（2022年（令和4年）11月4日）

【9/20 クラスマッチが行われました】

ユメックスアリーナでソフトバレーボールクラスマッチを行いました。昨年度は1学年だけで行われたクラスマッチも今年は2学年となり、みんなで楽しく競技をする様子が伺えました。

教頭として今回素晴らしいと思ったのは、選手としての姿だけではありません。大会の準備や、開会式・閉会式の進行、競技の審判、応援風景を見ていると、「昨年と比べると2年生が成長したなあ」「1年生も半年経って中学生らしくなった」と思う場面がいくつも見られました。みんなのために動けるようになるのは一段階ステップアップしたように思います。スポーツ系の生徒も学究系の生徒も、一生懸命、楽しく汗をかいている姿が印象的でした。



【9/30 第2回英語検定】【10/20 第2回漢字検定】

各種検定が行われました。全員が受検をした英語検定では、中学生の学びを越えた準2級の取得を目指し挑戦した生徒もいました。今回が初めての英語検定という1年生もいました。英検結果は10月下旬に通知がきており、1次試験合格者や、級取得の生徒も多く出てきました。漢字検定は希望者のみですが、準備をしっかりとってきた様子が見られました。漢検の結果は11月下旬になります。取得した資格は生徒自身のものですが、目に見える結果だけでなく、そこに至る「努力の過程」を大事にしたいものです。やればできる、挑戦して乗り越えるという気持ちを大切にしたいと思います。

【この秋、各部活動が躍動！】

野球部は地区優勝校による県新人の位置づけとなる試合で佐久長聖中を3-2で破り、学校初の県優勝を果たしました。翌週の全日本春季大会県決勝では浅間中を4-0で退け、来春の全国大会出場を決めました。女子バレーボール部は秋季松本市民祭で優勝、これでR3秋・R4春・R4秋と3季連続優勝となりました。サッカー一部も松本市民祭で2連覇を達成しました。女子バスケットボール部も中信新人で現在連勝中、ラグビー部は県高校ラグビー県大会決勝戦の前座で県新人戦に出場しました。

検定でも、部活動でも、みんなが全力で頑張れば素晴らしい力が生まれてくるはずです。この調子で国際中学の力を全県に知らしめてほしいと思います。

【11/1 授業参観】

なかなかコロナ禍で参観日を設けられませんでした。今年度初めて、全体で授業参観を設定することができました。1-1 保健（西海先生）、1-2 社会（三浦先生）、2-1 道徳（村澤先生）、2-2 国語（齊藤先生）の授業を参観していただきました。やや硬い表情も見られ、緊張している様子がありましたが、挙手して発表する生徒や他の生徒の意見をしっかりと聞いて頷く姿が見られました。授業参観後には、教頭から学校現況報告を、永原経明校長先生から高校への内部進学に関して松本国際高等学校のコース説明等がありました。2 学年は語学研修の説明と村澤学年主任からの話があり、1 学年は各学級で懇談を行いました。



【今後の予定】

- 11 月 11 日（金）数学検定（希望者）
- 19 日（土）第 2 回入学者選抜
- 11 月 24（木）-25 日（金）2 学期期末試験
- 12 月 7 日（水）-8 日（木）2 学年 Tokyo Global Gateway
- 12 月 15 日（木）-22 日（木）保護者懇談会
- 12 月 23 日（金）2 学期終業式

読書の秋です。実際「読書週間」というものがあり、今年は 10 月 27 日～11 月 9 日です。本屋さんで平積みされた『あなたのための短歌集』（木下龍也、ナナロク社）を購入してみました。“依頼者から届いた題材をもとに、木下氏がつくった短歌”のうち、提供された 100 首が収められた本です。はっとする短歌、胸をうつ短歌、そこに様々な三十一文字（みそひともじ）の文学がありました。ここでは依頼者の題材に木下氏が詠んだ三首を紹介させていただきます。この秋に生徒の皆さんが一冊の本と巡りあってほしいと思います。（山崎）

“人は生まれた時から、もしかすると生まれる前から不平等だと思います。でも、不平等だからこそ生きたいと思えるような短歌をお願いします。”

大きさも深さも違う花瓶にはそれぞれ似合う一輪がある

“まっすぐ生きたい。それだけを願っているのになかなかそうできません。まっすぐに生きられる短歌をお願いします。”

「まっすぐ」の文字のどれもが持っているカーブが日々にあったっていい

“教室を生き抜くための短歌をください。”

違いとは間違いない窓ひとつひとつに列の青空がある